

県の石・大阪府の石

風間 美穂

県の石とは

全国の都道府県では、郷土を代表する木や鳥を「県の花」、「県の鳥」として制定しています。これらは、その地域を代表する産業や観光の名所、過去の出来事や昔話に由来しているようです。大阪府では鳥がモズ、木はイチョウ、花はサクラソウとウメが指定されています。では、大阪府の石は何でしょう。そんなものあったかな？と思われる方がほとんどだと思いますが、2016 年 5 月に日本地質学会によって 47 都道府県の「県の石」が発表され、大阪府の石も決められています。日本は国土面積こそ広くありませんが、地質構造の複雑さは世界屈指で、隣接した地域であっても、産出する岩石などが大きく異なることがよくあります。この取り組みは、日本列島にある各都道府県で、それぞれの地域特有の「県の石」を選定することで、それまで石に興味をもっていなかった人々が、大地の成り立ちや地質に関心を持ち、大地とうまく付き合っていくことを目指して制定されたそうです。これが制定されるまでは、日本国内で「県の石」やそれに類するものが制定されたことはなかったようですが、アメリカ合衆国ではインディアナ州におけるライム・ストーン（石灰石）のように、州の石を定めているところもあるそうです。今回の制定では、岩石・鉱物・化石からそれぞれ 1 種類の合計 3 種類制定されています。では、大阪府の「県の石」3 種を紹介していきましょう。

大阪府の岩石「和泉石（和泉青石）」

和泉石および和泉青石とは、恐竜が生きていた時代の終わりごろにあたる、中生代白亜紀の後期（今から約 9,000 万年前～6,600 万年前）に海底で形成された岩石で、和泉山脈をかたちづくる「和泉層群」の堆積岩のうち、砂が固まってできた砂岩を元とした石材の名前です。岩石の正式名称は「和泉砂岩」です。色は青みがかった濃い灰色で、さわるとざらざらしています。やわらかくて加工がしやすいため、古くから泉州地域で利用され、神社の狛犬や灯籠、古い墓石など、和泉石でつくられている石造物が数多くあります。その半面、風化するのも早く、古い和泉石の石造物には、欠けたり剥離したりしているものが見られます。また、築城当初の岸和田城の石垣にも、この石材が多く用いられています（図 1）。

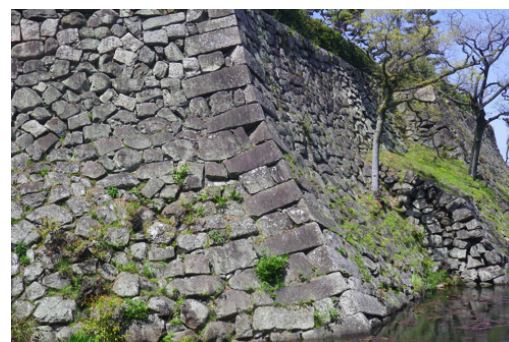


図 1. 岸和田城の石垣

大阪府の鉱物「ドーソン石」

ドーソン石は、ナトリウムとアルミニウムを主成分とする炭酸塩鉱物で、和泉層群の泥岩層から見つかります（図 2）。日本国内でドーソン石が最初に発見されたのが、泉佐野市大木地区であったことから、この鉱物が大阪府の石として選ばれたと考えられます。泥岩ノジュールを割ると、白色で光沢をもった針のような結晶が放射状に集まって、花のように見えることもあります。日本の他地域ではあまり見つからない鉱物ですが、モササウルスやアンモナイトなど、中生代の海棲生物の化石が出る和泉層群の^{あぜのたに}畦谷泥岩層（約 7,000 万年前に堆積）では普通に見ることができます。和泉石とドーソン石は、自然資料館の 2、3 階で展示していますので、ぜひごらんください。

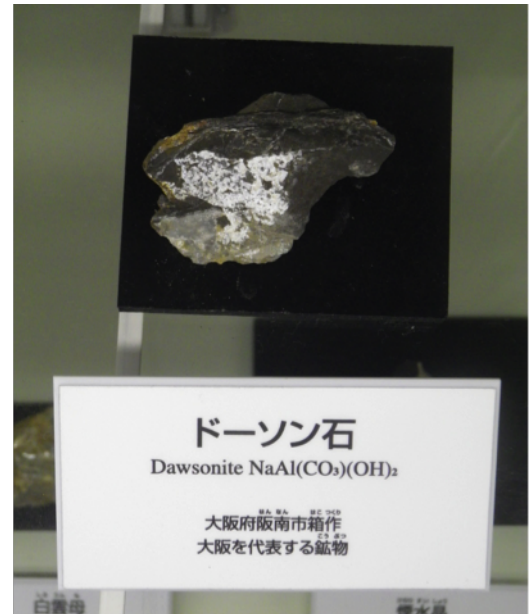


図 2. 自然資料館で展示中のドーソン石

大阪府の化石「マチカネワニ」

マチカネワニは、中学校の教科書にも載っているのでご存じの方も多いと思いますが、1964 年に大阪大学の待兼山キャンパス（豊中市）の工事中、日本ではじめて見つかったワニの全身骨格化石です（図 3）。生きていたときは、全長 6.9 m から 7.7 m、体重は 1.3 t くらいあったと考えられ、約 50 万年前の地層から見つかりました。この実物標本は現在、大阪大学総合学術博物館で常設展示されています。当館には、マチカネワニと同種あるいは近縁種と考えられている、今から約 70 万年前のキシワダワニの化石が所蔵されており、2 階でレプリカを展示しています。こちらは 1994 年 12 月に、岸和田市流木町（当時）の公共下水道工事中に発見されたものです。



図 3. 大阪大学総合学術博物館で展示中のマチカネワニ

おわりに

このように、今回制定された「大阪府の石」は、いずれも岸和田でも産出するか、あるいは岸和田との関係が深いものなのです。また、大阪府以外の「県の石」も調べると、たいへん興味深いことがわかんと思います。宮崎県の鬼の洗濯岩や、沖縄県の「港川人」、福岡県の「石炭」など、産業や観光、歴史に関するものも指定されています。理科だけではなく、社会の授業でも活用できるのではないのでしょうか。

（かざま みほ：自然資料館）

歴史を知り、現在から未来へつなぐもの

森村 紀代

小谷城郷土館は、「陶邑」で知られる須恵器の^{すえき}一大生産地であった泉北ニュータウンに隣接する堺市南区豊田に所在しており、鎌倉初期にこの地（若松荘）に地頭として赴任した小谷家の邸宅の一部を一般公開しています（図 4）。小谷城は、小谷氏（家）の居城として^{とがやま}梅山城・^{かなえじょう}豊田城とともに鼎城と呼ばれ、堺で

は古い城址の一つです。南北朝時代には南朝方で、千早赤阪城と大雄寺（浜寺）結ぶ地点で、「狼煙」中継地点として、また天野山金剛寺の行宮（あんぐう）を守る城とし任務を担っていました。戦国時代は根来党であったため、織田信長勢と戦い、天正三年（1575）に鼎城は落城し、城としての役目は終焉致しました。しかし、小谷家は大坂夏の陣に徳川方として参戦し、功勞をたて郷土となり、江戸時代、上神谷地域を治めていた和泉市伯太藩渡辺家（はかた）に仕え、庄屋を務めました。近代、泉北地域は、明治維新、戦後の農地解放、高度成長時代と激動の時代を経て、大きく変貌しました。その時の移る中、小谷家 39 代方明（みちあきら）は、地域の歴史について家伝や古文書などを研究し、消え行く文化財・民俗資料の研究に力を注ぎました。宮本常一氏をはじめ、岸和田市の民俗・民具の研究者も小谷家を訪れ、議論と情報交換の場として大阪の民俗学の拠点となっていました。方明氏は昭和 5 年に「和泉郷土文庫」、昭和 46 年に（財）小谷城郷土館の前身である小谷城郷土館を設立しました。平成 3 年に方明氏が他界した後、その意志を継ぎ財団法人の許認可を受け、同 6 年に登録博物館に、平成 17 年には主屋と門長屋・土蔵が登録有形文化財となり今日に至っております。

展示品は、小谷家所蔵の美術品（絵画・武具用品）をはじめとして、この地域を含む大阪府下の典型的な山間農村の民具を数多く所蔵しており、江戸期の民具も散見できます。耕作用具に偏ることなく、山林用具なども豊富です。絵馬、郷土玩具などの信仰民具も多数展示しております。特に郷土館が立地している南区は、海より約 12 km も離れており、海や池（淡水）で使用する漁具類のほとんどは、岸和田地域で使用されていた道具で、大漁旗、魚網、浮子、蛸壺、いわし計量箱、もんどり、竹の樋、四ツ手、モロッコの篩い、棒秤等を寄贈して頂きました（図 5）。ちなみに泉州では棒秤を「ちんぎ」とも呼ぶそうです。泉州では、品物を計るとき千切り（切りながら）重さを少しずつ調整して売っていました。その折、品物を千切るから言葉が変化して「ちんぎ」と呼ぶようになったそうです。でも気風のよい岸和田っ子は、最後「もっていけ」とおまけをしてくださったようです。郷土館に寄贈して頂いたのも、その気風のよさによるものだと思います。

小谷城郷土館では、館内の展示だけではなく、館外の学校施設や国外の博物館との交流も多く行っております。その一つの重要な活動として、小学校の学習の中での「昔の暮らし」を知る授業で、昔の道具である唐箕（とうみ）や棒秤を使って体験学習を行っています。また、当館では「歴史を知り、今を知れば、未来に役立つ」を指針にしており、「昔の生活道具」、「遊び」を通して、昔の暮らしの中から現在に活用されているもの、また未来に繋いでいかなければならないものを知って頂くように、展示や体験学習の内容を構成しております。実例としては、「結び」をテーマに風呂敷の本結びを基本とした「ペットボトル手提げ」や「ワイン包み」などの利用方法も紹介しています。風呂敷包みや紐結びは、環境への配慮だけでなく、災害時にも役立つことから利用の幅も広く、現在社会でとても役立ちます。また、「遊びから学ぶ」では、折り紙の折り方が「宇宙工学」、「医学」、「建築工学」等に利用され注目されていることを子供たちに伝えるプロ



図 4. 小谷城郷土館



図 5. 岸和田地域から寄贈された漁具類

グラムとなっております。風呂敷も折り紙も、大きさや色、柄、材質によって一つ一つ出来上がりが異なるため、独自性を楽しみ、創造性や発想などを育むことにつながります。さらに、近隣の博物館・資料館とも積極的に交流し、ワークショップや講演活動も行っております。ワークショップでは、前述した風呂敷の包み方、紐の結び方、「折り紙でトントンすもう」等を実施しています。ご来館の頂いた皆様には、ふるさとの懐かしさと、ゆったり流れる時空間を過ごして頂けることと思います。

(もりむら みちよ：小谷城郷土館)

Information

■自然資料館の展示・講演会案内■

写真展「第21回ネイチャーフォト写真展」

毎年恒例の写真展です。ふだんは気がつかないような自然の姿が見られるかもしれません。

日 時：2017年4月9日(日)～2017年5月5日(金・祝)

10:00～17:00 (入館は 16:00 まで)

場 所：自然資料館 1 階ホール

入場料：高校生以上 200 円・中学生以下無料

休館日：毎週月曜日

講演会「こわいけどおもしろい？マダニのはなし」

マダニはさまざまな感染症を媒介する節足動物です。この講演では、マダニの生態やマダニから身を守る方法などを紹介します。また、カやノミなどといったその他の衛生害虫についても紹介します。

日 時：2017 年 5 月 21 日(日) 13:30～15:30 (予定)

場 所：自然資料館 1 階ホール

講 師：山内健生氏(兵庫県立人と自然の博物館研究員)

費 用：無料

定 員：先着 40 名

■岸和田城の展示案内■

企画展「岸和田に残る文化財-市内の指定文化財-」

岸和田市内には多くの文化財があります。そのなか

でも、市内の指定文化財を中心に岸和田の歴史を振り返ります。市内にある指定文化財を紹介することで、歴史ある岸和田の魅力を伝えます。

日 時：2017 年 1 月 18 日(水)～5 月 21 日(日)

10:00～17:00 (入館は 16:00 まで)

場 所：岸和田城天守閣 2 階展示室

入場料：大人 300 円・中学生以下無料

休館日：3 月 20 日・4 月 3 日・4 月 10 日を除く月曜日

【きしわだ自然友の会 会員募集】

きしわだ自然友の会は、自然資料館と協力し、独自の行事や出展、会誌などを通して自然を楽しく学んでいる団体です。

自然が好きで、生物や地学をもっと楽しみたい・学びたい人は、ぜひご入会ください。未就学児の方も参加できる行事も多数あります。

学校園の授業に活用できるプログラムもあります。

対 象：身近な自然に興味のある個人・家族

期 間：4 月 1 日～翌年 3 月 31 日

費 用：個人会員年間 2,000 円(中学生以上の人が 1 人で入る場合)・家族会員 3,000 円(同居家族全員が対象)、特別会員年会費 10,000 円(友の会を援助してくださる人・団体)

申込・問い合わせ：4 月 1 日から直接、きしわだ自然友の会(自然資料館内 072-423-8100 へ)

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
(Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)